
短編オムニバス

メタかつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編オムニバス

【Nコード】

N4015D

【作者名】

メタかつ

【あらすじ】

コメディ、ホラー、意味不明な短編をオムニバス形式でまとめ上げます。

マリオの独り言

これは私が10才の時に体験した奇跡体験です

当時、私は人気ソフト『スーパーマリオブラザーズ』を買い、毎日のようにプレイしていました。しかし、お世辞にも上手いとは言えません…

あまりの下手さにお母さんも

「マリオがかわいそう」としよっちゅう言っていました。

10年前、メタカツ家…

「行け、マリオ！よつと！飛べ！Bダッシュ！」

この日もいつものようにプレイしていました。1ー1で何回死んだでしょう？最初のノコノコで死ぬのもザラです。

プレイ始めて3時間すぎた頃でしょうか？私はまだ1-2で苦戦していました。

「いっけ！飛べ！Bダッシュ！Bダッシュ…あれれれ？」

マリオがBダッシュしません。どんなにBボタン押しても歩いてません。

「何してんだマリオ！Bダッシュしろ！」

『お前が言つな下手くそ！つかれんだよ…』

「！」

私は心臓が止まりそうでした。

何とテレビの中のマリオが怒鳴ったのです……

『だいたい必要以上にジャンプするな！ノコノコ踏むな！足たまたに脱臼すんだよ…』

しまいにマリオは何を押しても無反応になりました。僕は何が起きたか理解不能です。テレビの中のマリオは何度も舌打ちをしています。さらに驚くべき事が起きます。

なんと後ろからルイー・ジが歩いてきたのです……

『マリオさん、僕達はファミコンの中のキャラなんだよ？しゃべっちゃマズいって！』

「だって、つかれたもん！ ルイージ代わってよ！」

「ダメだよ、僕人気ないし……」

マリオとルイージは2人でブツブツ文句を言っています。僕はただ呆然と見るしかなかったです。そしてマリオが溜め息をついた時でした。私の顔を見て言ったのです

『ボク…今日だけ特別だよ…俺が勝手にゴールしてあげるよ…』

「はあ？」

「つえー………!!!」

次の瞬間、マリオが猛烈な勢いで走り出しました。次、次とステージをクリアしていきます。笛を二個取り最終ステージへ…キラーに

当たることもありません。勿論私はコントローラーには一切触れてはいません…

そして気づいた時にはクツパは死んでいました…私は目を丸くし、驚きお母さん呼びました。

「ママア！マリオがしゃべった！ちよつと来て〜！！！」

「はあ？メタカツ頭大丈夫？」

お母さんは私の顔を少し見て、テレビを食い入るように見ていました…

「あら？メタカツ、クリアしたんだ凄いじゃないの！」

お母さんは満面の笑みです、そこにはピーチ姫と接吻しているマリオの姿だけがあります…

そして、それ以降マリオは私に話しかけることはありませんでした

…

ラザニアまん

俺はどこにでもいる中年オヤジだ。三流大学をでて三流企業に入った。家庭を持ち二人の子供もいる。平凡を地で書いたような人生を歩いてきた。でもこの年になるとな家庭では俺は邪魔もの扱いさ、娘にはゴミと呼ばれている…ふっ…でも構わないさ俺には居場所があるからな。

コンビニ…俺の心の休まる場所さ、若い女と会話のできる場所、ここで俺の事をゴミという奴はいない。コンビニこそが俺の第二のふるさとなんだ……

でも俺は今、非常に悩ましい問題に陥っている。もう涙が出そうだ…

俺はねラザニアまんが好きなんだ、でも今温めている途中らしい。次に好きなのが餃子まんなんだ、こちらはすでに温まっている…

『どう思うっ?』

今すぐ餃子まんを食べるか、少し待って一番好きなラザニアまんを食べるか、非常に悩むところだ…どうするのが一番よいか…難しい所だ…

おっと店員が舌打ちした…ちょっと待ってくれ。時間をくれ。

後これは重要な事なんだがラザニアまんは180円、餃子まんは150円、30円の誤算があるんだ。結構大きな問題だぜ…十日で三百円、百日で三千円だ。塵も積もれば山となるってやつだな。

かれこれ悩み始めて三十分…店員も歯軋りして鬼の形相で見てるよ…可愛い顔が台無しだぜ。でも怒ってる顔も可愛いぜ!

「お客さん、いい加減決めてもらえませんか？」

ふっ…怒りっぽい嬢ちゃんだな。客に選ばせる権利はないのか？

俺にとってラザニアまんは特別な存在なんだ。妻との初デートの時に二人で食べたんだ。嬉しかったな。俺は今でもラザニアまんを食べると妻の可愛かった頃を思い出すんだ…今はイベリコ豚のように太りやがって。家では俺のことを虫けらって呼びやがって…

「おい！オツサン！早くしろよ！」

おっと、客がキレたな…日本人はせっかちでいかな。お前にラザニアまんに対する俺の気持ちはわからない。

「あの、すいません行列になってるんですけど」

店員までキレてる…ちよつと待て。あと三十分程時間をくれ。

本当の事言つとね…俺は昔の可愛かった頃の妻に戻って欲しいんだよ…あの頃は楽しかったな…娘も可愛かった頃に戻って欲しい。そういう意味も込めて俺はラザニアまんを食べたいんだ。

「お客さん、ラザニアまんもう温まってますけど……………」

そうか…温まったか…じゃあラザニアまんを貰おう。ラザニアまんを買ったら今日の予定は終わったな。家に帰るとしよう……

「コンビニ…明日もまたこよう…」

『完』

ワイヤーカットの独り言（前書き）

馴染みのない切削機械。機械という言葉は冷たく聞こえる…

切削機械一人称で書いてみました…

ワイヤーカットの独り言

あたしはワイヤーカットあたしは魅力的なお・ん・な。どんな男もあたしに触れると、あたしを好きになるわ…そりゃあフライス、旋盤に比べるとマイナーかも知れない、でもねあたしには他にはない魅力があるの…

教えてあ・げ・る…

あたしの特技ダイ、パンチ加工、板の外枠を切り抜いて上げるわ。でも焦らないでね…あたしはマイペースなの焦らしてイタズラするとへそ曲げちゃうぞ！

あたしは手が掛かるお・ん・な…

あたしに触るときはゆっくり、焦らず、愛情を込めてね…日頃の手入れが肝心よ…その辺は町の女と同じね…あなたの優しさが感じられない時、あたしは何度もワイヤーを切る…何度も何度もワイヤーを切る…

あたしは悪いお・ん・な…

フライスや旋盤に浮気しないでね。仕事だから仕方ないって？嫌よ！あたしだけを見てよ！あたしだけを触ってよ！

フライスに板の中をくり抜くことができる？

旋盤で自動原点出しができる？

ボール盤でマウスで線をなぞるだけで、その通りに切削出来る？出来ないでしょ！

あたししかで・き・な・い・でしょ！

ペンダントだって作れちゃうんだよ

そりゃあ、あたしだってもちろん欠点はあるわ…

板がね…板がね…速く切れないの。厚い板ならなおさらのこと…あと日頃のメンテナンスが必要な…すぐワイヤーが切れるって？あなたが悪いんですよ！日頃のメンテナンスしてないから！私のせいにしないでよ！

あたしは繊細でデリケートなの…その辺のハンヨウ（漢字忘れました）機器と一緒にしないで！

あたしは年中無休のおんな、あなたが帰った後も仕事をしてるわ…

誰もいない孤独な工場の中ひたすら板を切っているわ…

明日会えるあなたの顔を思い出して…

でも大型連休だと悲惨ね…たまにはあたしに会いに来てよ。え？休日出勤は嫌？いいから来なさい！あたしに会いにきなさい！

あたしは手の掛かるお・ん・な…

あたしの名前はワイヤーカット…

もう一度言っわワイヤーカットよ…

携帯を見つめてる君…そう、その君よ…一度あたしに会いに来て…

あたしの名前はワイヤーカット…

ワイヤーカット。

ワイヤーカットの独り言（後書き）

ワイヤーカット…知らない人にはなんのこっちゃでしょう。

辞書で調べてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4015d/>

短編オムニバス

2010年10月9日20時00分発行